



高砂市【兵庫県】 歴史文化基本構想

■ 策定年月：平成23年3月 ■ 人口：91,698人 ■ 面積：35km²
■ 担当課：高砂市教育委員会生涯学習課（平成30年3月現在）



高砂市の歴史文化をひもとき、高砂市の個性や魅力を形成している歴史文化の流れを再確認し、それを将来に受け継ぎ活かしていくための考え方と方策をまとめた。歴史文化といっても過去を振り返るだけのものではなく、これから編み出されていく、将来の高砂の文化をどうしていくかを考える構想である。

5 歴史文化を表す
つのキーワード

竜山石の文化、みなとのまち、塩づくり、
白砂青松、ひとづくりとまちづくりで結ぶ

課題

- ・文化財の総合的な把握や保存活用が不十分
- ・市民が地域に愛着を抱いている一方、歴史文化と結びついていない

保存活用方針

- ・歴史文化資源の価値の保存を図り、後世に受け継ぐ
- ・効果的な活用を図るため価値の顕在化を図り、まちづくりに活かす

保存活用のための取り組み

「竜山石の文化」…確実な保存と魅力発信で活用

- ・古代から現代まで連綿と受け継がれた、生きた石の文化を継承し、将来へ受け継ぐ
- ・石切場の景観を活かした地域産業を生み出す
- ・全国流通した石の歴史を再認識し、新たな交流を生み出す情報発信に取り組む
- ・歴史的特性を活かしながら、地域活性化に寄与する活用を展開する



「白砂青松」…失いかけた歴史文化の再生がテーマ

- ・白砂青松の痕跡や史料を掘り起こし、「ふるさと文化財」への登録を進める
- ・残された自然地形や松を大切に守り育てる
- ・枯れてもなお植え継がれてきた各神社の霊松を大切に後世に伝えていく



「塩づくり」…現代につながる地域を支えた産業の掘り起こし

- ・塩づくりに関する文化財を積極的に公開し、調査研究・情報収集と顕彰を進め、お宝を発掘する
- ・伝統技術を継承し、地域産業の情報発信拠点として保存整備を進める
- ・市民や企業の協力のもと、環境を活かしたものづくりやブランド作りに向けた活動を展開する



「みなとのまち」…文化交流や経済の拠点をまちづくりへ展開

- ・歴史的建造物・まちなみ・祭礼等を受け継ぎ活かす
- ・個性や魅力をまちづくりの中で効果的に保存活用する
- ・資源の活用で、まちの個性を高め交流人口の増加や定住化促進などの地域活性化につなげる
- ・各みなとを結ぶルートを魅力的に広げ、拠点を保存整備する



関連文化財群



4つのテーマの関連文化財群が、関係性をもってまとまって存在する。「竜山石の文化」は、市域全域に広がり、竜山石切場と石の宝殿が中心施設に位置づけられる。「みなとのまち」は、市域南部の川沿いにある港町に集積し、歴史的建造物が中心施設に位置づけられる。「白砂青松・塩づくり」は、海岸線沿いに点在する。

ストーリー

- 1 竜山石の文化は、高砂の風景に息づく資源で、市全域に及ぶ、年代や地域ごとの特徴的なまとまりや石の生産システムに係る資源群である
- 2 白砂青松は、多くの文人歌人に愛でられた高砂の原風景で、何代にもわたり大切に受け継がれた霊松は、地域再生する動きにつながる
- 3 塩づくりは、高砂の環境に根ざした伝統技術・産業で、歴史文化を学ぶ手掛かりとなる
- 4 みなとのまちは、文化交流の拠点で資源が集積した区域であり、個性に富んだ歴史的建造物やまちなみが広がる

策定後の成果（見込まれる効果）

① ひとづくり

学校教育や生涯学習の活動の中に、歴史文化のテーマにもとづく体験や講座を導入することで、子どもや地域住民に、地域の個性ある魅力を学び、体感する機会を創出している。市民や団体が、主体的に、地域の魅力を発信し広げる、まちあるきや文化観光ガイドなどの活動に役立っている。



② 観光による発信と推進体制の整備

歴史的町並みをライトアップしコンサートを行う「たかさご万灯祭」では、観光客が多数押し寄せ、まちの活性化や魅力の発信につながっている。市民・企業・行政が、相互に連携し推進する、体制づくりの整備につながり、歴史文化資源の保存活用が地域の観光振興につながっている。



③ 交流拠点の整備

竜山石の文化の中核施設である採石遺跡が国史跡として指定され整備事業を進めている。みなとのまちにある江戸時代の堀川遺構や商家建築を保存整備し、拠点施設として活用を展開している。交流の拠点を整備活用することが、歴史まちづくりを具現化することにつながり、推進力となっている。

